

函館 たより

Vol. 05

TAKE
ご自由にお持ちください
FREE



看護師の特定行為とは？

患者さんにタイムリーかつ、安心・安全な医療を提供

特定行為とは高度で専門的な知識・技能を特定行為研修により身につけた看護師が、医師による手順書をもとに行う診療の補助のことをいいます。

超高齢社会を迎え、医師や看護師不足も懸念される中、多職種協働によるチーム医療の展開が必要とされ、特に看護師の役割拡大が重要な時代となりました。どのような役割かという、難度の高い診療の補助業務を、医師があらかじめ作成する「手順書」という指示のもと実践するという役割です。医師の到着を待たず、患者さんの症状にあわせて必要かつ適切な処置ができる実践能力の高い看護師が増えると、よりタイムリーな対応が可能となり、患者さんにとっても医療者にとってもメリットが大きいのです。

〈当院で実施する特定行為区分〉

○呼吸器関連

・人工呼吸器の設定条件変更や鎮静薬の投与量の調整、人工呼吸器から自身での呼吸に移行するための段階的な調整

○循環器関連

・一時的に設置された体外式ペースメーカーの操作や管理、リードの抜去
・経皮的な心肺補助装置（心臓と肺の機能を一時的に代行する機械）の操作や管理
・大動脈内バルーンポンピング（心臓のポンプ機能を補助する機械）による補助を少なくする過程での、補助回数の調整

○動脈血液分析関連

・動脈からの採血や動脈内への針の留置



“集中治療の安全・確実なスキルを
患者さんにお届けします”



人工呼吸器の設定調整を行う研修



動脈採血シミュレータを用いた研修

函館・道南SART内における 当院看護師の役割と支援について

函館・道南
SARTとは

性暴力から市民を守るために

函館・道南地域における性犯罪・性暴力被害者に対して、被害者の心身の負担を軽減し、その健康の回復と共に被害の潜在化防止を図ることを目的としています。自治体、警察、医療機関等が連携を図り、2018年に「函館・道南SART（性暴力対応チーム）」を結成し、現在まで支援活動を行っています。

Sexual=性 **Assault=暴力**
Response=対応 **Team=チーム**

市立函館病院SARTにおける看護師の 役割とチーム紹介

SARTにおける看護師の役割は、性犯罪や性暴力被害にあった方の精神的・身体的苦痛が少しでも緩和できるようサポートすることです。チームはSANE-j（学会認定日本版性暴力対応看護師）SANET（性暴力被害者診療支援看護職）など性暴力被害者支援のための専門的知識や技術を備えた看護師を中心に医師・看護師・助産師・事務員で構成されています。主に救急科、産婦人科、一般外科などの外来や病棟で活動しているため、安心して支援を受けることができます。



市立函館病院SARTの支援内容

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1) 外傷治療 | 4) 証拠採取 |
| 2) 緊急避妊 | 5) 婦人科・外科診察 |
| 3) 性感染症検査・治療 | 6) 警察・支援員などとの連携 |

友達や家族が被害にあったら

責めたり、怒りや悲し気で混乱した気持ちをぶつけずに受け止め、窓口への相談を勧めましょう。相談窓口は、以下のダイヤルで受け付けています。

SART相談専門ダイヤル〈NPO法人ウイメンズネット函館〉 ☎0138-85-8825
月～金 10:00～17:00（土日祝祭日、12/29～1/3除く）

性犯罪被害110番〈北海道警察〉24時間対応 ハートさん #8103

市立函館病院がん相談支援センター

がん患者さんやご家族のよろず相談窓口です。

検査・治療についてのお悩みのご相談をうけたり、望まれる生活を整えるお手伝いをします。当院の患者さん・ご家族に限らず受け付けています。お気軽にご相談ください。

- ★今の検査や治療についてくわしく聞きたい
- ★他の病院の医師の話も聞きたい
- ★自分の病気や体力にあった仕事をみつきたい
- ★経済面の相談がしたい

- ★自宅で家族と一緒に過ごしたい
- ★ウィッグの相談がしたい
- ★同じく闘病しているひとの話が聞きたいなど

NEWS

がん啓発活動として、地域の小中学校、高校のがん教育に参加しています。今年度から初の試みでオンラインによる講演を行っています。

元気会（函館がん患者家族会）やハローワーク函館と連携しています。
お問い合わせは下記まで。



◆市立函館病院がん相談支援センター ☎0138-43-2000 がん相談員／渡邊

フットケアチームの活動について

足の症状がある方は、心臓血管外科外来へお気軽にご相談を

当院では、足の症状（痛み、しびれ、足先が黒くなる等）で困っている患者さんを対象に「早期発見」「症状緩和」「再発予防」を目的としたフットケアチームの活動を行っています。

チームメンバーは、心臓血管外科医師・看護師・理学療法士・診療放射線技師・臨床検査技師・義肢装具士で構成されています。チーム内の看護師の役割は、対象患者さん（ご家族）へのフットケア実践・指導・相談窓口です。



主な活動内容は、フットケア回診、カンファレンス、退院指導、院内・外の看護師への情報周知や勉強会開催等です。



退院された患者さん（ご家族）に対しては、心臓血管外科外来の「フットケア外来」にて心臓血管外科医師・フットケア指導看護師・義肢装具士が患者さんへの傷の処置、ご自宅での処置の方法や、靴の合わせ方など継続したケアを実践しています。

足の痛み、しびれ、足先が黒くなる等でお困りの方は、市立函館病院心臓血管外科外来までご相談ください。

認知症の方がより安心して治療を受けられるよう

認知症看護認定看護師が活動しています

認知症状のある方は入院による環境変化や身体の不調により認知機能の低下や不安の増大で混乱したり、入院前に出来ていたことが出来なくなってしまうことがあります。認知症状のある方が安心・安全に過ごせるよう認知症看護認定看護師や医師、精神保健福祉士がチームとなり、入院生活をサポートします。

認知症ケアチームにおける 認知症看護認定看護師の役割

認知症看護認定看護師が各病棟を定期的に巡回し認知症状のある方の苦痛や困りごとに耳を傾け、病棟看護師と協力して認知機能の維持や混乱・不安を最小限にする援助をしています。たっぷり時間を取り会話することで不安などを表出できることも多いです。

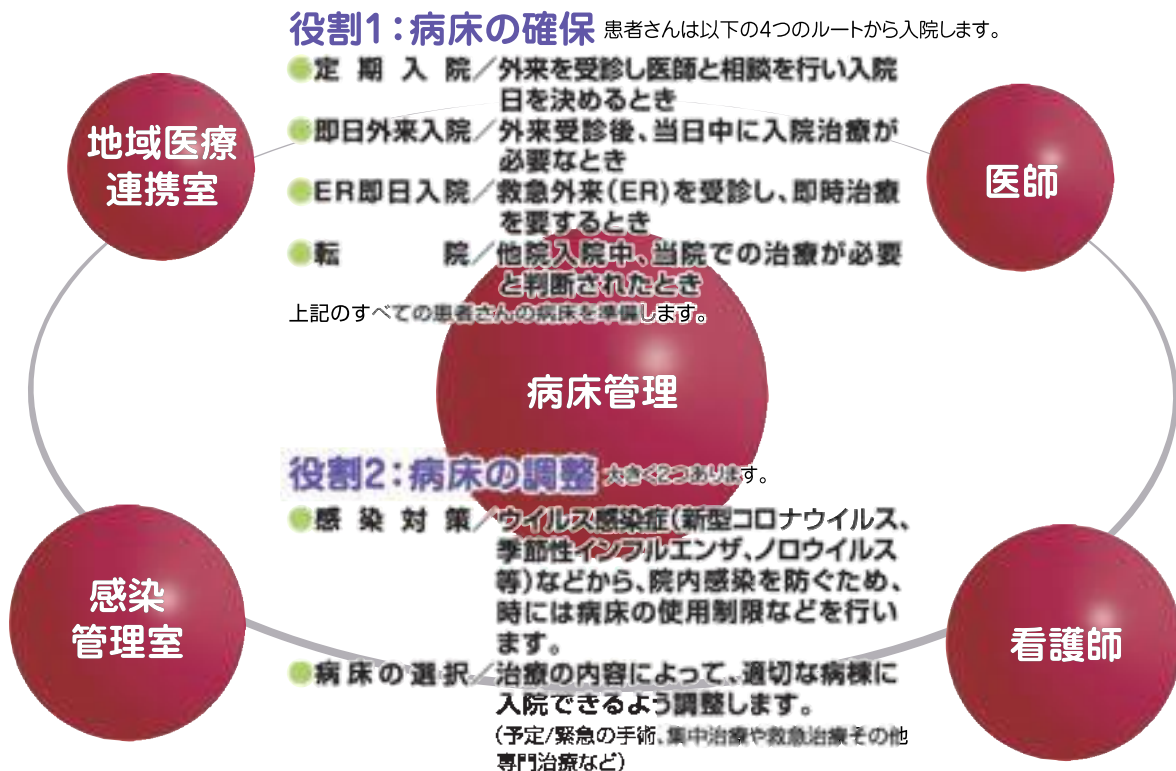
また、病棟スタッフと協力して不安の軽減や入院前に行っていたことを維持できるようケアを考え、実践しています。

愛用品の持参（腕時計・ラジオなど）、写真、習慣などを教えていただくとケアの参考になります。少しでも入院前の生活に近づく環境作りは認知症状のある方にとってとても大切です。



病床管理を行う看護師の役割

現在、市立函館病院の入院患者さん用の稼働病床数は504床です。月に1,000人余りの患者さんが入院されます。そのすべての患者さんの病床を確保し、入院中の医療体制維持を行うための病床管理を行っています。



色々な職種が協働し病床の確保と調整をしています

クリニカルパスを用いた医療と看護を提供しています

クリニカルパスとは

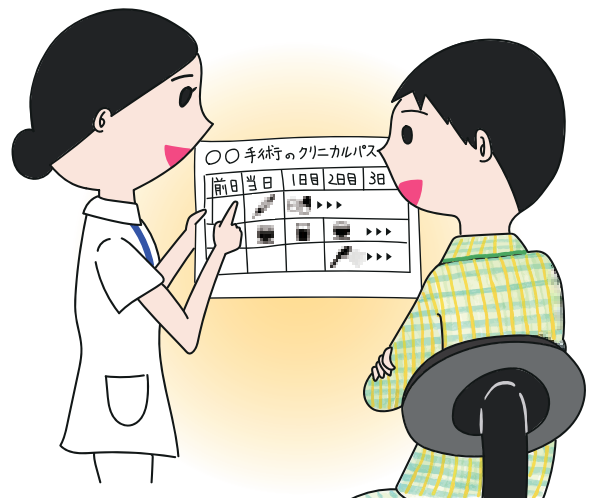
患者さんの診療内容や治療の進み方をスケジュール化して分かりやすく計画表にまとめたもので、今後の予定や注意点などが書いてあります。治療や検査の予定以外にも看護師のケアや薬剤師・栄養士による指導計画なども記入されています。

医療の標準化

クリニカルパスには、病気に対する科学的根拠に基づいた医療や看護が組み込まれます。つまりは、医療の質を担保し、かつばらつきの少ない治療や処置、ケアの提供が行えます。

患者さんにとっての利点

- ★ 治療過程が見えるため、いつ何が行われるかといった不安が解消されます。またご家族にとっても治療内容が把握しやすくなります。
- ★ 治療内容がわかるので医療スタッフとのコミュニケーションが活発になります。
- ★ 患者さんと医療スタッフが治療過程を共有することで、患者さん自らが積極的に治療に参加できます。
- ★ 当院の様な急性期病院と転院先である回復期病院などが治療計画を共有する地域連携クリニカルパスでは、治療計画に従ってスムーズで切れ目のない医療を提供することができます。



臓器提供 ～いのちの贈りもの～

臓器提供とは

人の体にはたくさんの臓器があります。その臓器が今の医学では治せず機能しなくなったとき、健康な臓器を移植することで、今までのような元気な体が戻ってきます。この治療法を移植医療といい、治療には臓器を提供して下さる方が必要です。臓器の提供は、脳死後あるいは心臓が停止した死後に提供でき、法改正後は、本人の臓器提供の意思が不明でも、ご家族の承諾があれば、15歳未満の方からの臓器提供も可能になりました。

脳死下で提供可能な臓器



市立函館病院には、「院内移植コーディネーター」と呼ばれるスタッフが8名（医師2名、看護師6名）活動しています。

院内移植コーディネーターである看護師の役割は

臓器提供を考えているご家族に必要な説明を行い、臓器の提供から移植までがスムーズに運ぶよう日本臓器移植ネットワークコーディネーターと連携し調整を行っています。またご家族の思いを傾聴し中立的な立場で意思を尊重しています。

主な活動内容

- ①患者さんから臓器提供の相談を受け付けています
- ②院内・院外での啓発活動をしています 例:学校を訪問しての出前講座
- ③脳死下臓器提供発生時のシミュレーションを企画・実施しています
- ④意思表示カードの所持を入院患者さんに確認しています

看護補助者とともに

看護の現場を支える金のたまごたち

当院では市立函館病院高等看護学院の学生を対象に入院病棟での『看護補助業務のアルバイト』を行っています。学生が授業後から夜間にかけて病棟看護師が行う業務の一端を担い、看護師の業務軽減を図ることで、看護師は患者さん一人一人に対して更に充実した看護ケアを実践できます。また、学生においては与えられた業務の中で生の現場を知り、肌で感じることで広い視野を持った職業人育成の一助となることを目的としています。





認定看護師らによるシミュレータを用いた救急対応デモンストレーションの様子

道南地域の医療人育成を支援する 函病メディカルシミュレーションセンター

シミュレーションセンターとは、実際の医療現場で経験する場面や環境を模擬的に再現し、その体験に基づき実践能力を培うための施設です。医療現場で働くスタッフの教育は、知識重視から実践能力重視の教育へ変革し、シミュレーション教育は医師や看護師の臨床実践能力を高めるうえで非常に有効とされています。

“認定看護師らが講師として活躍”

当施設は2019年7月の開設以来、採血や注射などの基本的手技トレーナーをはじめ、生体情報をリアルに再現する高機能マネキンなど数多くの訓練機器を揃え、医師や看護師等の医療従事者、さらには医療や看護などの道を志す学生にも活用いただける環境を整えてきました。

ここでの体験を積み重ねることで、患者さんへの負担や危険を最小限とした安心・安全かつ質の高い医療を提供することができます。また、当施設は市立函館病院の職員のみならず地域の医療従事者が研修会等を通じて、ともに成長し合える場として医療人の育成に貢献できることを目指しています。

小児の採血、注射訓練



痰の吸引技術訓練



人工呼吸器の装着体験





市立函館病院(～2000)
-弥生町-

市立函館病院(2000～)
-港町-

